

令和 8 年度

# 大阪教育大学 附属学校園

教員人事交流制度のご案内



新たなステージで

教育への情熱を

輝かせませんか？



国立大学法人  
大阪教育大学

# 未来教育の創造と実践に向けて

理事・副学長  
(附属学校・教育委員会連携担当)  
附属学校統括機構長  
藤井 睦子



急激に変化する時代に生きる子どもたちを育むために、主体的・対話的な深い学びをはじめとする「令和の日本型学校教育」の構築が求められています。

大阪教育大学は、教員養成フラッグシップ大学として、「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・育成を先導し、多様な主体とともに未来教育の創造と発信を進めています。さらに、大阪教育大学の11の附属学校園は、大学と連携しながら先進的・先導的な教育を実践・研究するとともに、教育実習等を通じて教師の養成を担っています。

各附属学校園では、探究的な学習や教科横断的な学びなど、特徴的な教育活動や教育研究が行われています。交流の経験は、これまでの教育活動を振り返り、先進的な教育を実践する機会となるでしょう。また、附属学校園で得られた知見や産学とのネットワークは、先生方の将来の教育活動にも大いに生きるはずです。

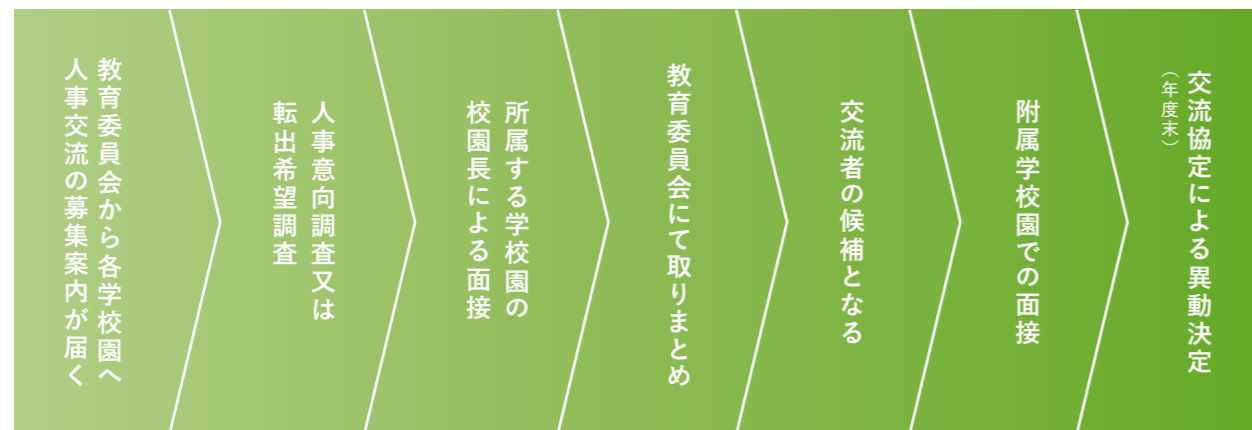
チャレンジ精神と熱意をお持ちの先生方に附属学校園にお越しいただき、大阪教育大学とともに未来教育を創造し実践いただけることを心より期待しています。

## 大阪教育大学附属学校園で働いてみませんか

大阪教育大学は、大阪府及び府内市町村の教育委員会と、人事交流に関する協定を結んでいます。この協定のもと、現在11の附属学校園の教員の約半数が、人事交流制度による教員であり、教育実習指導や研究活動等の中心となって活躍しています。人事交流の手続きは次のような流れになります。

※各附属学校園において、その年度の人事交流枠がある場合に限りです。

### ▼ 人事交流の流れ (教育委員会により異なる場合があります)



## 附属学校園での「働き方改革」について

附属学校園では、教員の働き方改革に力を入れています。具体的には超過勤務時間及び時間外在校時間を減らすために各学校園で目標を定め、部活動支援員をはじめとする外部人材の活用や業務の効率化を進めています。また、附属学校園では変形労働時間制を採用しています。繁忙期に勤務日を多く設定したり、閑散期に休日を増やしたりすることで、教員の働き方の効率化を図っています。

※労働条件や採用情報の詳細は右のQRコードからご確認ください。 人事課人事係 E-mail [ninyo@bur.osaka-kyoiku.ac.jp](mailto:ninyo@bur.osaka-kyoiku.ac.jp)



# 附属学校園でできること

## 01

各附属学校園の設定課題に基づいた研究活動を通じて、**教育実践の視野と力量が広がります。**

先進的な教育研究を推進し、国の委託事業や教育課程特例校として様々な教育研究に取り組んでいます。自身の資質向上はもちろん、交流元に帰ってから還元できる知識・能力を得られる機会となります。



〈一例〉附属天王寺小学校(R8年度～R11年度)・附属平野小学校(H28年度～R元年度、R6年度～R9年度)文部科学省研究開発学校 指定  
附属池田小学校(平成21年度～)文部科学省教育課程特例校 指定  
附属天王寺中学校・附属平野中学校(R8年度～R9年度)文部科学省教育課程柔軟化サキドリ研究校 指定  
附属高等学校天王寺校舎(R5年度～R9年度)スーパーサイエンスハイスクール(SSH) 指定

## 02

自分の設定したテーマで**科研費やその他助成金に応募したり、企業・団体との共同研究に挑戦できます。**

科学研究費助成事業(科研費)の一つである「奨励研究」へ応募する附属学校園の教員は、申請に際して大学からのサポートを受けることができます。希望者には応募書類の添削サポートや大学教員からアドバイスを受ける機会を設けています。また、附属学校園では様々な助成金や共同研究にも取り組んでいます。

〈R8年度奨励研究獲得実績〉  
採択数:附属学校園全体 7名

〈R7年度その他助成金実績一例〉  
附属池田小学校  
『日本安全教育学会 令和7年度研究助成』(日本安全教育学会)  
助成額:20万円  
附属天王寺中学校  
『公益財団法人中谷財団 2026年度科学教育振興助成』  
(公益財団法人中谷財団)  
助成額:30万円

## 03

連合教職大学院への「**内地研修制度**」を利用できます。

現職研修の一環として、所属校長の推薦を受けて、教職大学院で実践的な学びを行います。内地研修員になれば、教職大学院の授業料が全額免除されます。(年度ごとに推薦枠に限りがあります。検定料及び入学料は自己負担となります。)

〈R6年度～R8年度実績〉  
内地研修員 計10名  
(スクールリーダーシップコース5名、援助ニーズ教育実践コース1名、教育実践力コース3名、特別支援教育コース1名)

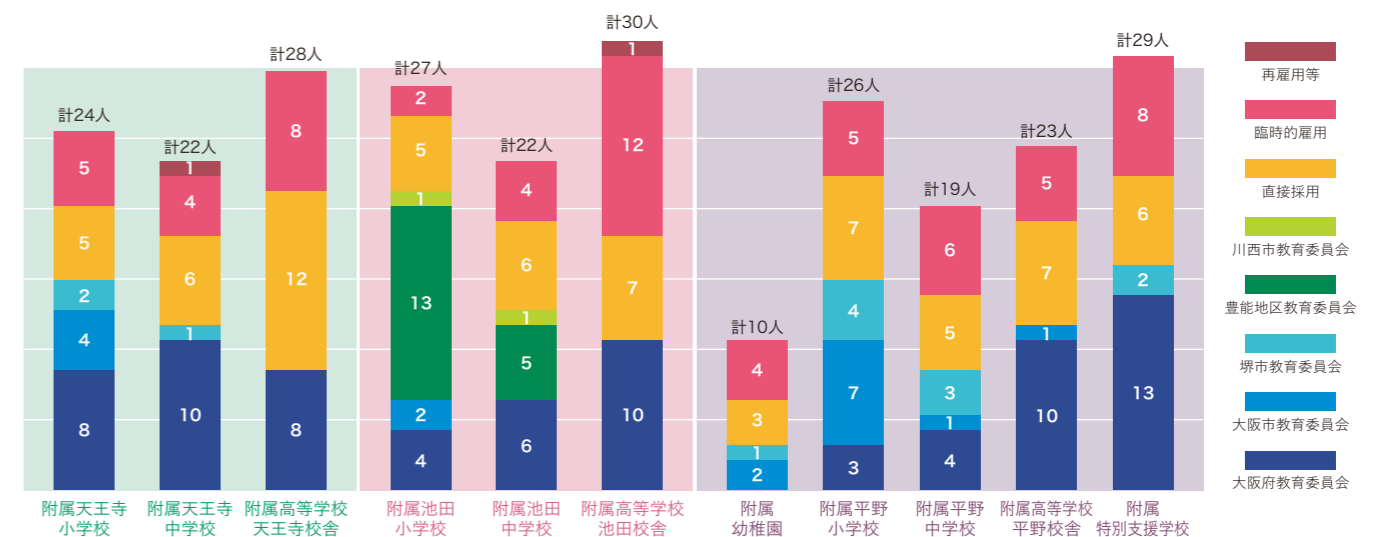
## 04

大学や異なる校種の教員と協働して**教育研究活動を行えます。**

〈一例〉附属学校園教員と大学教員との研究交流会、地区間合同研究発表会 等

## 附属学校園人事交流状況

令和8年4月1日現在 ※病気休暇取得者・産前産後休暇取得者・育児休業者を含む(臨時的雇用は、病気休暇取得者・産前産後休暇取得者・育児休業者の代替者を含む)



井 恒 介 さん

派遣元市町村：大阪府  
現在の所属校：附属池田中学校  
担当教科：数学科



教科の枠を超えて、  
生徒も教師も  
「ワクワクする学び」を  
創りたい。

古 川 裕 介 さん

派遣元市町村：大阪府  
現在の所属校：附属高等学校天王寺校舎  
担当教科：芸術科(音楽)



附属学校という  
「表現の舞台」で、  
教育の理想を  
追求したい。

Interview

Q1 / 附属学校の雰囲気や特徴を教えてください。

職員室に一歩足を踏み入れると、そこには教科の枠を超えた熱い対話が日常として存在しています。数学科の私がふと漏らした授業の悩みに、理科や英語の教員が自然と駆け寄り、「その視点ならこんなアプローチはどう?」「今の社会情勢ならこの事例が使える」と議論の輪が広がります。互いの専門性を尊重し、高め合おうとする姿勢があります。ICT、生成AI、探究学習……。教員一人ひとりが持つ「尖った強み」が対話を通じて化学反応を起こし、より高度な教育を形作るのだと感じます。

Q2 / 附属学校ならではの「醍醐味」は何でしょうか?

「公開研究会」は附属学校ならではの醍醐味です。かつては数人の参観者に緊張していた私が、1年目にして80名を超える全国の先生方を前に授業を行いました。「ポロノイ図」を題材に、キリンの模様など自然界の造形から数学を紐解くという内容です。張り詰めた空気の中、全国から集まった教員の“熱い”視線が、私の授業を「一校の実践」から「日本の教育を変え得る実践」へと変えていく、あの独特の熱量と高揚感は忘れられません。

Q3 / 附属学校ではどのようなことに挑戦されましたか?

私はSTEAM教育やオリガミクス(折り紙の数学)を題材とした様々な大学教員との共同研究プロジェクトに携ってきました。こうした活動の中で得た最先端の知見を自分自身の授業へ還元し、昨年度は「対話の見える化」を軸に数学科と総合学習を横断してAIを活用する実践を形にすることができました。その結果、「ICT夢コンテスト」での受賞や、「統計・データサイエンス力向上のための授業に係る優秀事例表彰」においてもその成果を認めていただき、優秀賞をいただくといった、客観的な評価にも繋げることができました。

Q4 / ここでの経験は、これからの教育活動にどう繋がると感じていますか?

附属学校での経験で、私は「去年と同じだから」という慣習を捨て、常に行事や授業の「目的(Why)」を問い直す習慣ができました。「それって意味あるの?」という本質的な問いを繰り返す中で、私の視界は一気に開けました。そして各分野のスペシャリストや日本中の実践者と触れ合い、多様な価値観に触れる中で、以前は一つの市、一つの学校という狭い範囲でしか教育を語れなかった私が、今では県、国、そして世界という広い視点で教育を捉えることができるようになりました。

Interview

Q1 / 人事交流に挑戦しようと決めた背景には、どのような思いがありましたか?

私の初任校は府内の工科高校でした。「どうすれば生徒が音楽に興味を持つか」と試行錯誤する中、当時の民間人校長は私のやりたいと思ったことを否定せず、企画実現のプロセスを丁寧に指導してくださいました。この経験から私は企画力や周囲を巻き込むコミュニケーションの大切さを学びました。附属学校に挑戦したのは、培った力をより高度な教育実践の場で発揮したいと考えたからです。附属学校で、魅力ある音楽授業の研究と実践に邁進し、その成果を教育活動に還元したいと思っています。

Q2 / 教育活動において大切にしていることは何ですか?

生徒が「まず、やってみよう!」と前に踏み出すことのできる、心理的安全性の高い雰囲気づくりを一番大切にしています。また、私自身「うたう」と「教える」ことを両立させ、その両方を高めたいと考えています。例えば、シューベルトという作曲家を授業で取り上げるときは、必ず私が生演奏することで、表現する楽しさを自ら生徒に示すようにしています。日頃はドイツ歌曲を主な研究フィールドとしていますが、特定のジャンルに固執せず、多様な音楽に関心を向けるよう心がけています。

Q3 / 附属学校で力を注がれた取組はありますか?

大学が持つ高度な専門性を活かし、「生徒と大学生の双方に教育効果がある企画を届けたい」という想いから、本校の生徒と本学の音楽表現コースの学生が協働でつくるコンサートを企画しました。これは単なる発表会ではなく、音楽を奏でるアーティストとして本番に臨む「ホンモノの演奏会」です。大学生と共にステージを創り上げる体験は、生徒たちにとって非常に大きな刺激となりました。また、大学からプロの指揮者を招き、中学1年生向けの指揮法特別授業も実施しました。プロのレッスンを受けて生徒が成長する瞬間に立ち会えたことは大きな喜びでした。

Q4 / ズバリ、附属学校の「魅力」は?

附属学校の魅力は、生徒と議論しながら教育のあり方を深め、新しい挑戦ができる点です。高い志を持つ同僚や、自ら楽しみを生み出す生徒と切磋琢磨し、共に成長できる環境があります。私は高校に加えて中学も担当し、中1から高校卒業まで6年間、生徒の成長を見守る貴重な経験をえました。発達段階に応じた指導を実践的に学べたことは大きな財産です。また、中・高・大が同じキャンパスにあるため、他校種の教員と日常的に交流できる点も魅力です。これからも大阪の「笑いと人情の文化」を生かし、自己表現力を育む教育を広げていきたいです。

※活動の一環は、本学HP「トピックス」からご覧いただけます。



# 附属学校園一覧

各校園の詳細は  
こちら▶▶▶



TENNOJI District

## 天王寺地区

**研究テーマ**  
(平成22年度～)

### 人間と科学の調和を拓く リテラシー教育

物事に対する知的好奇心を基礎に、科学的・論理的な知識や技能を活用し、課題の発見や解決への道を体験的な学びを通して開拓していくリテラシーの育成をめざしています。

## 附属天王寺小学校



本校は、長年にわたり教科研究を深化させるため、校内研修・校内研究を推進し、その成果を毎年授業研究会で全国に広く発信しています。また、令和2年度及び3年度には国立教育政策研究所の教育課程研究指定校として、令和7年度には教育課程特例校として「教科横断的な学習としてのSTEAM教育」を推進しました。そして、令和8年度より、文部科学省研究開発学校に指定され、STEAM科を核にICT活用を通して児童の学びを深めています。

収容定員 …… 630  
学級数 …… 18

HIRANO District

## 平野地区

**研究テーマ**  
(令和7年度～)

### 新しい社会を創造する子ども一人ひとりの 育成を目指した教育課程の実施と教育評価

～主体性が働く課題設定能力の育成と学習評価のモデル開発をめざして～

すべての校種が近接する地区の特色を生かし、五校園が日常的に連携して子どもたちの交流・共同学習や教員の協働と研究を進めています。なかでも、幼稚園から高校まで学び続ける環境と特別な支援を得ながら育つ環境に基づき、全国的にもめずらしい「五校園共同研究」に取り組み、長期的な子どもの成長の視点にたった主体性の育成や探究的な学びの指導など、今日的な教育課題に焦点をあてた研究に邁進しています。

## 附属幼稚園



「すこやかに、あたたかく、遊びに生きる子ども」という教育目標のもと、主体的に生活する子どもの育成をめざしています。園内の豊かな自然環境(実のなる木、様々な動物等)、ものや身近な人々との関わりを通して学びが深まるよう取り組んでいます。また、保護者による「手づくり給食」を実施し、保育内容にも食の関心に繋がる内容を取り入れながら食育を推進しています。

収容定員 …… 140  
学級数 …… 6

## 附属天王寺中学校



「質実剛健」の校風を持ち、歴史と伝統を誇る「天王寺学びのもり」から多くの有為な人材を輩出してきました。本物体験とコミュニケーション能力を高める場が数多くプログラムされています。さらに、新しい文化や情報の発信を行い、教員・生徒をはじめ保護者やステークホルダーすべての人々の力を結集して、「学びたい学校、学んでよかった学校、学ばせたい学校」をめざしています。

収容定員 …… 396  
学級数 …… 11

## 附属高等学校天王寺校舎



本校は、「自由・自主・自立」の精神を大切に、自ら学び、考え、行動できる人材の育成をめざす学校です。生徒一人ひとりが他者と協働しながら学びを深める教育環境を整え、実物に触れる「ホンモノ体験」を重視した学びを推進しています。生徒自治会活動をはじめ、知的好奇心を刺激する多様な活動の場を提供しています。また、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の第3期では、国際的に協働できる文理融合型の学習者を育成しています。アメリカやタイの理数科高校との交流を積極的に行い、グローバルな視野と実践力を育む教育を展開しています。

収容定員 …… 480  
学級数 …… 12

## 附属平野小学校



教育目標「ひとりて考え ひとと考え 最後までやりぬく子」を基盤とし、令和6年度より、文部科学省研究開発学校に再度指定されたことを受けて、新教科「未来探究科」を新設し、「未来の社会を創り出す子ども」の育成を目指して研究を進めています。教職員・保護者・卒業生・地域が一体となって、子どもたちの健やかなる成長に向けて、特色ある学校づくりに取り組んでいます。

収容定員 …… 630  
学級数 …… 18

## 附属平野中学校



本校では、「真剣を究める。」をスローガンに、授業や学校行事の中で主体性と協働への意欲を高め、生徒一人ひとりが最大限の力を発揮できる学校を目指しています。また、総合的な学習の時間(JOIN)では、日常生活や社会の課題に向き合い、課題解決のための提案を行います。平野五校園と家庭、地域が一体となり、教育実践を重ねています。

収容定員 …… 324  
学級数 …… 9

IKEDA District

## 池田地区

**研究テーマ**  
(令和5年度～)

### グローバル社会を協働的に 創造する資質・能力の育成

持続可能な社会の実現に向けて、「安全」等の様々な課題を自分のこととして捉えられるよう、そして、多面的な視点で論理的・批判的に考え、主体的に学び続けることで、VUCAの未来を自主・自律の精神をもって生きていくことができる資質・能力の育成をめざしています。

## 附属池田小学校



平成27年3月、日本初のセーフティプロモーションスクール(SPS)に認証された本校は、現在アドバンストSPS校として「主体・寛容・安全」をキーワードに教育活動を展開しています。「安全教育」「道徳教育」「協働活動」を通じ、自他の命や多様な考えを尊重し、共によりよい社会を築く資質の育成に取り組んでいます。また、全国の教員と交流する教育研修会を開催し、質の高い授業づくりの研究を推進しています。

収容定員 …… 630  
学級数 …… 18

## 附属高等学校平野校舎



1学年120名という学校規模と令和2年度より指定を受けたワールド・ワイド・ラーニング(WWL) コンソーシアム構築支援事業拠点校としての強みを生かした教育活動を展開しています。少数精鋭・創造探究・自主自立の教育方針のもと、国内・海外の大学・高校・協働機関・平野五校園等と連携し、ホンモノとの出会いと深い学びから何事にも應ずることのない探究心を育み、多文化・多様性を理解し世界で活躍するグローバルリーダーの育成に取り組んでいます。

収容定員 …… 360  
学級数 …… 9


## 附属特別支援学校



本校は、知的発達障害のある児童生徒が学んでいる学校です。一人ひとりの存在と個性を尊重した教育支援を日々実践しています。小学部から中学部、そして高等部まで一貫したキャリア教育の視点を取り入れ、自ら考え行動できること(自立)、仲間と支え合い共に活動できること(相互依存)、主体的に社会に関われること(社会参加)を目標として、子ども・保護者・地域にとって魅力ある学校づくりに取り組んでいます。

収容定員 …… 60  
学級数 …… 9

## 附属池田中学校



自主・自律の精神のもと、コミュニケーション力、探究力を重視し、「安全教育」「道徳教育」「地域活動」を通じて、世界や社会の課題に向き合い、多様な人々と共に生きる豊かな心を育む教育を行っています。また、平成27年3月にセーフティプロモーションスクール(SPS)に認証され、令和6年3月には継続的に安全に取り組む学校として、アドバンストSPS校に認証されました。

収容定員 …… 396  
学級数 …… 11

## 附属高等学校池田校舎



自由・自主・自律の校風のもと、生徒一人ひとりの個性を大切にしながら、「安全教育」「国際教育」「創造活動」を通じて、持続可能な社会の実現に向けた課題を世界の人々と協働して創造的に解決する力を養う教育を行っています。令和2年度からWWLコンソーシアム構築支援事業の共同実施校となり、令和4年3月にはセーフティプロモーションスクール(SPS)認証校となりました。

収容定員 …… 480  
学級数 …… 12

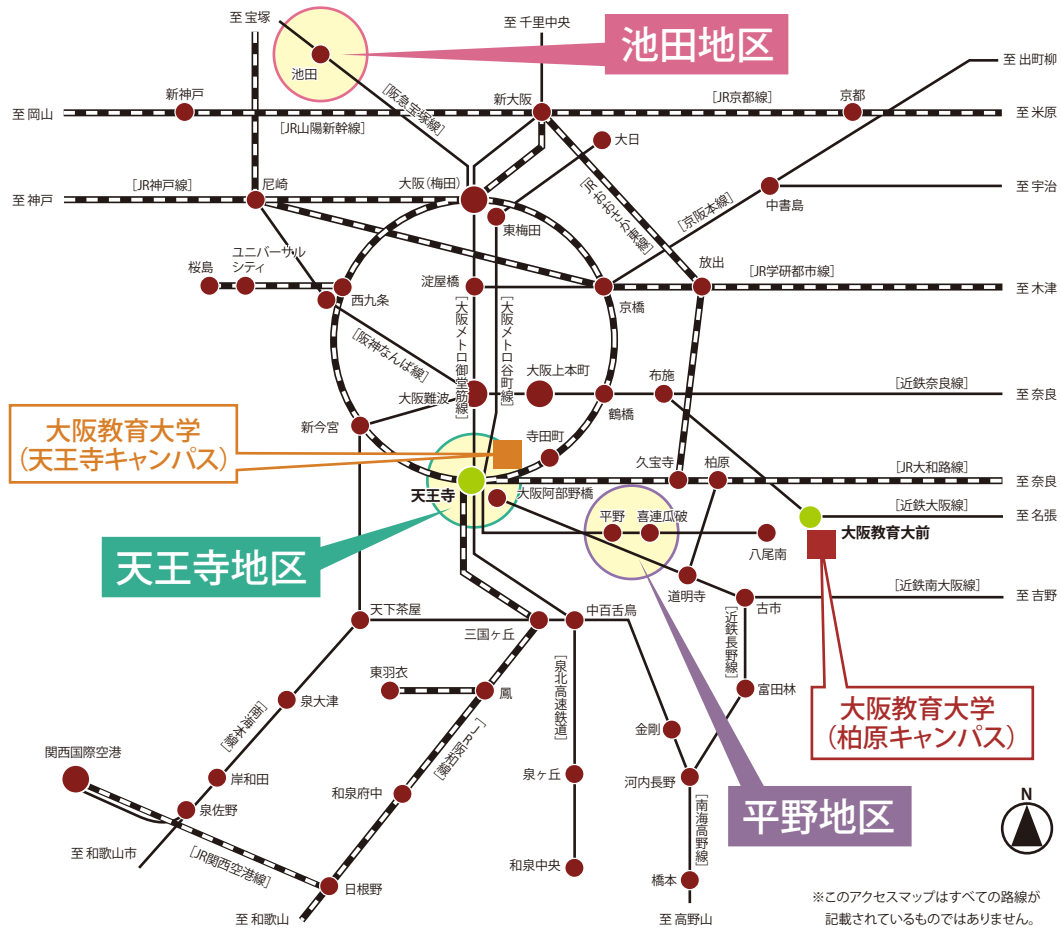
### 附属学校統括機構

天王寺地区	附属天王寺小学校	池田地区	附属池田小学校	平野地区	附属幼稚園	附属高等学校平野校舎
	附属天王寺中学校		附属池田中学校		附属平野小学校	附属特別支援学校
	附属高等学校天王寺校舎		附属高等学校池田校舎		附属平野中学校	

本学では、大学と附属学校園を結ぶ「附属学校統括機構」を設け、次世代の教育を推進しています。この機構は、11の附属学校園(小学校:3校、中学校:3校、高等学校:1校3校舎、特別支援学校:1校、幼稚園:1園)を統括し、学校運営の効率化、先進的な指導法や教育研究の深化、さらには学校安全教育の充実を図るとともに、大学部局との連携を進めています。また、附属学校園は、教育研究・教育実習の重要な拠点としての役割を果たし、それぞれ地域の特色に基づいた教育テーマに取り組むとともに、連絡進学をはじめとする相互連携を図っています。

※数字は令和8年4月1日現在

## ACCESS MAP



## 附属学校園の研究発表会等予定

附属学校園では下記の日程で研究発表会等を予定しております。詳細及び参加申込につきましては、各学校園のHPをご覧ください。

- |               |                         |                |              |            |         |
|---------------|-------------------------|----------------|--------------|------------|---------|
| ● 附属天王寺小学校    | 令和9年2月5日・6日             | 研究発表会          | ● 附属池田中学校    | 令和8年11月14日 | 研究発表会   |
| ● 附属天王寺中・高等学校 | 令和8年11月7日               | 教育研究会          | ● 附属高等学校池田校舎 | 令和8年11月14日 | 研究発表会   |
| ● 附属池田小学校     | 令和8年11月14日<br>令和9年2月13日 | 研究発表会<br>教育研修会 | ● 池田地区       | 令和8年11月14日 | 研究発表会   |
| ● 附属平野小学校     | 令和9年2月12日・13日           | 研究発表会          | ● 附属特別支援学校   | 令和9年2月6日   | 研究発表会   |
| ● 附属平野中学校     | 令和8年10月31日              | 研究発表会          | ● 附属幼稚園      | 令和9年1月30日  | 保育研究会   |
| ● 附属高等学校平野校舎  | 令和8年10月31日              | 研究発表会          | ● 平野五校園      | 令和8年10月31日 | 共同研究発表会 |

編集発行

大阪教育大学附属学校統括機構

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

E-mail fuzoku@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

Tel.072-978-4017 Fax.072-978-3262

大阪教育大学Webページ

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/>

